



開園に至る当時を回想し併せて コロナ禍の行事に思いを寄せて

理事 高橋 正光



春3月は別れの季節、卒園の子ども達を無事送り出し一息つく間もなく4月を迎え令和3年度がスタートしました。新入園児の慣れ保育や在園児の進級及び担任が変わることによる戸惑い等、暫くは慌ただしい日々の保育が毎年のように展開されます。我が園も、光陰矢の如し、早いもので昭和55年の開園以来42年目を迎えました。小生は江戸の中期から300年余り続く農家の7人兄弟の末っ子長男として生を受け、当然の如く家業の農業を継ぐのが必然で、学生を終えて30歳までの8年間は椎茸栽培やホウレン草等の葉物栽培の農業に勤しんできました。しかしながらどうしてもこうにも小生には農業は不向きなようで一生の仕事とは思えなくなり、学生の頃に思い描いた子どもと関われる仕事がふと頭をよぎり、一念発起、東京都及び立川市に保育園設置の許可を願い出しました。当然の如く簡単には許可は出ません。単に子どもが好きと言うだけで資格も資金も経験もなし、あるのはやる気と先祖伝来の土地だけ。若輩でもあり相手にされません。それでも諦めずに足繁く通いました。するとある日のこと、小生の粘り強さに根負けしたかのように東京都は、地元自治体が設置を認めれば許可をすること、ただし条件があって、土地(敷地=1,719㎡)と1ヶ月分の運転資金は、設立する社会福祉法人に寄付することが前提でした。その後、立川市からも許可があり、早速社会福祉法人の設立(認可申請書)に自ら取り掛かると同時に、国や東京都に提出する補助金交付申請書等の作成及び設計士や建設業者の選定、そして工事着工と、園舎が竣工し開園する迄の間は猫の手も借りたいぐらい忙しく、職員の募集では、最前線を担う保育士は幼稚園で6年経験の保育士を主任に、保育園経験が1年の保育士1人、他の職員は厨房を含む全てが新卒で、要の園長は素人同然、保護者にとってみると、なんとも頼りない保育園と思われたに違いありません。当然、右往左往しながら暗中模索の保育が続いたわけであり、こうして開設当時を振り返ってみると様々なことが走馬灯のように思い起こされ「ただ子どもが好き」という動機だけで立ち上げさせていただき、職員と共に子ども達の健やかな成長を楽しみに、がむしゃらに歩いて来た園が40数年も経っていることに正直信じられない思いでいます。様々な歴史を刻み今日まで営々と歩みを続けてこられたのも、ひとえに園の運営にご理解ご協力をいただいた保護者の皆様を始め、職員や関係した全ての方の支えがあったからこそで、生涯忘れてはならないものと肝に銘じております。

ところで、昨年度は保育界にとっても新型コロナウイルス感染症の拡大で平穏な保育の日常が失われ、子ども達の活動にも暗い影を落としました。当然、我が園も行事の縮小を余儀なくされましたが、子ども達の健やかな成長と思い出作りを主眼に、中止にはせず工夫を凝らし行いました。遠足は近場の動物園に例年バス1台のところを2台に分乗し、運動会もクラスごとに体操発表会と銘打って開催、クリスマス発表会は乳児(遊戯)から幼児(遊戯・劇)まで同様に発表し、保護者の観覧制限等の制約はあったもののWeb配信も行い何とか開催できました。又、コロナ禍は近隣の小学校の周年行事にも影響を与えました。開校50周年を迎えるその小学校は記念行事開催に向け実行委員会を組織、何故かその会の重責を仰せつかり、式典・祝賀会について話し合いを重ねてきましたが収束の兆しは見え、行政や各学校長、PTAや地域の方々を招いての式典は断念したものの中止にはせず、会では全児童参加による校庭での開催を提案、当日は雲一つない晴天に恵まれ、1年生～6年生がフィジカルディスタンスを保ちながら1時間にわたる式典を挙行、式の後半はプロマジシャンのショーや学校にまつわるクイズ、そして式を締めくくるバルーンリリースでは子ども達の笑顔と共に熱気も最高潮に達し、手作りの温もりを感じた素晴らしい式典となり胸を熱くしました。実行していただいた校長先生を始め教職員の皆様に地域の一人として心から感謝した次第です。